

---

## 新 刊 紹 介

○ **千葉県植物** (下) 双子葉植物篇 (1965) に引続いて、その下篇が発行された。本文78頁。今回は単子葉植物・裸子植物・羊歯植物を含んでいる。伊藤至・大野景徳両氏の共篇で、類似植物を多くの図で理解しやすく説明してある。1967年3月千葉県生物学会 (千葉市弥生町千葉大学文理学部植物学教室) 発行。代価は送料とも300円の由。(里見)

○ **日本のスミレ** 橋本保著, 誠文堂新光社発行 (1967年3月), 定価1000円。

春の野をかざるスミレは野草の中でもとりわけ可れんであり, 親しみ深いものである。

完頭4頁, 8枚のカラー写真は美しく, それらの花色は紫・白・黄色等さまざまであり, 葉・茎・根などの形にもいろいろと違っていることを教えている。

スミレ科の先祖の発祥の地は南半球の熱帯圏であるといわれる。そして, この科のあるものが北半球の北のはしまでおし出して来て, 新しい一群が思い切り発達をとげた。それがスミレであるといわれる。実際, 日本は世界でも有数のスミレ国であつて, 種類の数が70をこしている。

筆者は東京大学理学部附属小石川植物園に勤務されているすぐれた植物学者で, 1965年10月から翌年2月にかけて, 南アメリカのアンデス地帯を旅行して, そこのスミレをみて来られたから, 「スミレの進化にふれて」の項は著者ならでは書くことの出来ない興味深い文章であろう。また230頁のすみずみまで, わかりにくい点に焦点を合わせて, 100枚をこす写真と多くの図でわかりやすく説明している。(里見)

○ **帰化植物図譜** 帰化植物の数は近年増加する一方で, その同定にはいつも苦労させられる。本書は記載ばかりでなく, 図に加えて平易な検索表まで用意されているから——北九州を中心に記述されていても——まさに帰化植物を知るには是非とも座右に具えられるべきである。長田武正他十数氏共著, 第一学習社発行 (1967年6月), 定価1,600円 (里見)